

ふるさと再発見

第8代島原城主 松平 忠刻公(1716・1749年)

忠刻公は1716(享保元)年、深溝松平家の分家の旗本・松平勘敬の長男として生まれました。深溝の木を十万本植樹させてお

り、島原藩の主要産業の一つとなつていきます。一方で、忠刻公は文芸もよくたのい

なかつた前藩主・忠見公が病に倒れ、急遽忠見公の養子となりましたが、程なくして忠見公が亡くなつたため、そのまま藩主となりました。

忠刻公の治政は、以後の政治や産業の礎となつた施策が見られます。1739(元文4)年これまでの日誌に加え、藩の部署ごとに年間の出来事を詳細に記録するよう命じました。また



忠刻公が造立を認めた十六羅漢石像 (市指定文化財・本光寺)

1741(寛保元)年には、月ごとの引き継ぎによつてあやふやになつていた罪人の罪状や禁固の年数を、記録によつてはつきりさせるようにしました。産業面では1744(延享元)年、領内に和ろうそくの原料とな

る。享年34歳、藩主としては11年の在位でした。亡骸は下松から一

旦島原に運ばれ、葬儀が営まれた後、三河国深溝(今の愛知県幸田町)の本光寺に運ばれ、埋葬されました。

(社会教育課学芸員 吉田信也)

地域おこし協力隊コラム

協力隊、なんしよっと?

地域おこし協力隊 小野友代佳

6月に行われた「第三回な

新鮮でした。

がさき地おこマルシェ」に参加してきました。この「ながさき地おこマルシェ」は、長崎県の協力隊が中心となつて行っているイベントで、「よそもんが地のよかもん集めました」をテーマに、特産品や工芸品など地域一押しのもを集めたイベントです。2回目の参加ですが、SNSなどインターネットでの情報発信とは違い、市外の人に島原の紹介やお話をする機会はとても

今回本市の協力隊は、イベントのポスターやホームページの制作から、「パネルディスカッション」、「長崎県×クイズ大会」など会場ステージでパーソナリティーをするなどブース出展以外にも活躍しました。長崎県内各地域の協力隊員の活動を紹介したパネル展示や、地域PR合戦なども加わり、協力隊から見た地域の魅力を発信できたのではないかと思います。

いよいよ残りの任期も半年ほどになりましたが、今後も各隊員の得意分野を生かした方法で島原の魅力を多くの皆さんに発信し続けていきたいと思ひます。

▼問い合わせ先 島原ふるさと創生本部(☎08012)



島原のPRブース(イベント会場)

